

【別紙様式2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書		
光市立大和中学校	学級数：2学級	児童生徒数：49人
令和7年6月17日(火)	学年 第2学年	教科 道徳
題材名（演題）「がん患者の思い」～がんになった私が伝えたいこと～		
がん教育において取り扱う具体的な内容		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生		
使用教材等		
中学校・高等学校版 スライドモジュール1、2、3、4、5、8 一部使用も含む		
 		
授業（講演会）の内容（流れ）		
<ol style="list-style-type: none"> 1 がんについての正しい基礎知識 2 体験談 3 グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・自分が辛い状況になったときに周りにどんなことをしてほしいか ・周りの人にどうしてもらったら嬉しいか ・グループで意見交換 4 発表 5 振り返り 		
外部講師との連携		
ポポメリー代表 藤本 育栄 氏		
成果と課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・保健の授業だけでは得られないがんについてのより専門的な知識（がん細胞のこと、がんの体験談）を講師の先生から直接聞くことができ、生徒自身も印象に残る授業だったように思う。（成果） ・グループワークによって、道徳的観点や価値観を高めることができた。（成果） ・地域の方や保護者の方にも積極的な参加をしていただけるように、日程調整や参観日に設定するなどしていきたい。（課題） ・がんは誰にでも起こりうる可能性のある病気だから、自分も大人になってからあるかもしれないし、家族がなるかもしれない。だから、がん検診のことなど語ってあげるようにしたいです。（生徒感想） ・私がびっくりしたのは、私たちはがん細胞が健康な人の体でもつくられていると知り、おそろしいなど感じました。嬉しかったことは「キャンサー」という小さいぬいぐるみをもらえたことです。（生徒感想） 		

【別紙様式2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書		
光市立浅江中学校	学級数：14学級	児童生徒数：357人

令和7年6月20日（金）	学年 第2学年	教科 保健体育
題材名（演題） がんについて詳しく学ぼう		
がん教育において取り扱う具体的な内容		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input checked="" type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生		
使用教材等	中学校・高等学校版 スライドモジュール2、7	
授業（講演会）の内容（流れ）		
<ol style="list-style-type: none"> 1 がんって、何だろう 2 がんは何故できるの？ 3 日本のがんの現状 4 どんな「がん」があるの? ～最近増えているがんは？～ ・大腸がん、胃がん ・乳がん、婦人科がん 5 予防できる「がん」 ・胃がん ・肝がん、肝硬変 ・子宮頸がんや口腔がん 6 がん治療の支援 7 緩和ケアについて～なぜ緩和ケアが必要なのだろう～ 8 家族ががんになったら… 9 質疑、応答 		
		
外部講師との連携		
山口大学医学部附属病院 腫瘍センター 准教授 井岡 達也 氏		
成果と課題		
<p>○成績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」という項目の割合が実施前41.9%から実施後62.1%へ増加。 ・「がんは誰でもなる可能性がある」と自分事としてがんを捉えることができた。 ・がんに対する正しい知識を学び、理解を深めることができた。 ・がんの予防や、早期発見することの重要性について学ぶことができた。 ・家族とコミュニケーションをとることの大切さを学び、生徒からは「家族と協力して支え合っていきたい」という感想も見られた。 ・保護者の感想より、「自分の子供の頃にはがんの話を聞く機会はなかったので、子供たちが触れ合うきっかけができる良かったです。家族での会話が必要だと言うことを伝えてくださったのが嬉しかったです。」と、保護者にもがん教育の重要性について気づいてもらうことができた。 		
<p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんについてさらに理解を深めるためには、この取組を継続していく必要がある。 ・学校だけでなく、家庭、地域も巻き込んだ「がん教育」の推進を行っていきたい。 ・がん当事者、当事者の家族へは、十分配慮する必要がある。 		

【別紙様式2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書																																							
柳井市立余田小学校	学級数：6学級	児童生徒数：55人																																					
<table border="1"> <tr> <td>令和7年9月4日（木）</td> <td>学年 第6学年</td> <td>教科 特別活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">題材名（演題） 『今を生きる』</td> </tr> <tr> <td colspan="4">がん教育において取り扱う具体的な内容</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <input type="checkbox"/>ア がんとは（がんの要因等） <input type="checkbox"/>エ がんの予防 <input type="checkbox"/>キ がん治療における緩和ケア </td> <td colspan="2"> <input type="checkbox"/>イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/>オ がんの早期発見、がん検診 <input checked="" type="checkbox"/>ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/>ウ 我が国のがんの状況 <input type="checkbox"/>カ がんの治療法 <input checked="" type="checkbox"/>ケ がん患者への理解と共生 </td> </tr> <tr> <td colspan="4">使用教材等</td> </tr> <tr> <td colspan="4">外部講師による講演</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 授業（講演会）の内容（流れ） <ol style="list-style-type: none"> 1 『今を生きる』とは <ul style="list-style-type: none"> ・縁と絆 ・成長する喜び ・小さな困難を乗り越えることの連続 ・誰かを幸せにする喜び ・利己と利他 2 「どんな姿になっても生きて」 <ul style="list-style-type: none"> ・がんの告知、治療法の選択、家族との絆 ・声を失うということ ・がんの早期発見・早期治療の重要性 3 『今を生きる』 6年生へ 4 講演後、本時の学習の振り返り </td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 外部講師との連携 下関市社会福祉協議会 会長 児玉典彦 氏 </td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 成果と課題 <p>がん経験者の思いや経験を、直接見聞きすることを通して、自他の健康と命の尊さに気付き、よりよく生きようとする態度を育てることを目的とした。</p> <p>下咽頭がんで声を失い、人工喉頭器を通した児玉氏にしか伝えられない言葉により、子どもたちは、生きることの尊さを感じ、今をどのように生きていくかについて考えることができた。講演前は、がんについて「あまり知らない」「（漠然と）怖い病気」「死」「治療による抜毛」という印象を抱いていた児童が多かったが、がんの早期発見・早期治療の重要性を理解することができ、がんに罹患したとしても“縁と絆”を大切に自分らしく生きていくことで充実した生き方につながることを感じることができた。さらに、本講演会を参観日に実施し、保護者や地域、近隣小中学校へ公開したことで、多くの方々にがんや生きることについて考えていただく機会となったことも一つの成果である。</p> <p>このたびのがん教育を通して、がんに対する理解だけでなく、「健康な体づくりに努めたい」「自他の命を大切にしたい」「よりよく今を生きていきたい」という意識を高めることができたので、今後の健康教育につなげていきたい。</p> </td> </tr> </table>				令和7年9月4日（木）	学年 第6学年	教科 特別活動		題材名（演題） 『今を生きる』				がん教育において取り扱う具体的な内容				<input type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input type="checkbox"/> エ がんの予防 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア		<input type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生		使用教材等				外部講師による講演				授業（講演会）の内容（流れ） <ol style="list-style-type: none"> 1 『今を生きる』とは <ul style="list-style-type: none"> ・縁と絆 ・成長する喜び ・小さな困難を乗り越えることの連続 ・誰かを幸せにする喜び ・利己と利他 2 「どんな姿になっても生きて」 <ul style="list-style-type: none"> ・がんの告知、治療法の選択、家族との絆 ・声を失うということ ・がんの早期発見・早期治療の重要性 3 『今を生きる』 6年生へ 4 講演後、本時の学習の振り返り 				外部講師との連携 下関市社会福祉協議会 会長 児玉典彦 氏				成果と課題 <p>がん経験者の思いや経験を、直接見聞きすることを通して、自他の健康と命の尊さに気付き、よりよく生きようとする態度を育てることを目的とした。</p> <p>下咽頭がんで声を失い、人工喉頭器を通した児玉氏にしか伝えられない言葉により、子どもたちは、生きることの尊さを感じ、今をどのように生きていくかについて考えることができた。講演前は、がんについて「あまり知らない」「（漠然と）怖い病気」「死」「治療による抜毛」という印象を抱いていた児童が多かったが、がんの早期発見・早期治療の重要性を理解することができ、がんに罹患したとしても“縁と絆”を大切に自分らしく生きていくことで充実した生き方につながることを感じることができた。さらに、本講演会を参観日に実施し、保護者や地域、近隣小中学校へ公開したことで、多くの方々にがんや生きることについて考えていただく機会となったことも一つの成果である。</p> <p>このたびのがん教育を通して、がんに対する理解だけでなく、「健康な体づくりに努めたい」「自他の命を大切にしたい」「よりよく今を生きていきたい」という意識を高めることができたので、今後の健康教育につなげていきたい。</p>			
令和7年9月4日（木）	学年 第6学年	教科 特別活動																																					
題材名（演題） 『今を生きる』																																							
がん教育において取り扱う具体的な内容																																							
<input type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input type="checkbox"/> エ がんの予防 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア		<input type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生																																					
使用教材等																																							
外部講師による講演																																							
授業（講演会）の内容（流れ） <ol style="list-style-type: none"> 1 『今を生きる』とは <ul style="list-style-type: none"> ・縁と絆 ・成長する喜び ・小さな困難を乗り越えることの連続 ・誰かを幸せにする喜び ・利己と利他 2 「どんな姿になっても生きて」 <ul style="list-style-type: none"> ・がんの告知、治療法の選択、家族との絆 ・声を失うということ ・がんの早期発見・早期治療の重要性 3 『今を生きる』 6年生へ 4 講演後、本時の学習の振り返り 																																							
外部講師との連携 下関市社会福祉協議会 会長 児玉典彦 氏																																							
成果と課題 <p>がん経験者の思いや経験を、直接見聞きすることを通して、自他の健康と命の尊さに気付き、よりよく生きようとする態度を育てることを目的とした。</p> <p>下咽頭がんで声を失い、人工喉頭器を通した児玉氏にしか伝えられない言葉により、子どもたちは、生きることの尊さを感じ、今をどのように生きていくかについて考えることができた。講演前は、がんについて「あまり知らない」「（漠然と）怖い病気」「死」「治療による抜毛」という印象を抱いていた児童が多かったが、がんの早期発見・早期治療の重要性を理解することができ、がんに罹患したとしても“縁と絆”を大切に自分らしく生きていくことで充実した生き方につながることを感じることができた。さらに、本講演会を参観日に実施し、保護者や地域、近隣小中学校へ公開したことで、多くの方々にがんや生きることについて考えていただく機会となったことも一つの成果である。</p> <p>このたびのがん教育を通して、がんに対する理解だけでなく、「健康な体づくりに努めたい」「自他の命を大切にしたい」「よりよく今を生きていきたい」という意識を高めることができたので、今後の健康教育につなげていきたい。</p>																																							

【別紙様式2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書		
柳井市立小田小学校	学級数：5学級	児童生徒数：41人

令和7年9月12日（金）	第5. 6学年	教科 学級活動
題材名 「がんを知り、理解しよう」		
がん教育において取り扱う具体的な内容		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生		
使用教材等		
<ul style="list-style-type: none"> ・【小学校版】映像教材「がん博士の『がんについての基礎知識』」 ・【小学校版】映像教材②「がんと生きる」 ・ワークシート ・【中学校・高等学校版】スライドモジュール2 ・がん教育指導教材スライド（三重県作成） ・がん教育副読本「がんを知り、理解しよう」（山口県作成） 		
3校時 授業の内容 単元名「がんを学ぼう！あなたと大切な人の命のために」		
1 がんとはどんな病気だろう? 2 がんについて正しく学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・がんとは ・がんの予防には、健康によい生活習慣 ・がんの早期発見には、がん検診 3 がん患者の思いを理解する 4 健康と「命の大切さ」について考える 5 学習の振り返り（ワークシート記入）		
		
4校時 教育講演会		
演題：「わたしのがん体験から学んだこと」～今を生きるということ～ 講師：あけぼの会代表 和崎 美幸 様		
成果と課題		
<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんは誰にでも起こり得る身近な病気であることを理解できた。 ・子どもたちは「死と直結する怖い病気」というイメージを持っていたがんについて、正しい知識を学ぶことで前向きに予防しようとする気持ちが高まった。 ・生活習慣の改善や定期的ながん検診によって多くのがんを防ぐことができると理解し、自らの健康への意識を高めることができた。 ・児童全員が、家族や身近な人の健康を願い、学んだことを家庭へ伝えたいと考えるようになった。 ・がん患者の方の「今を生きるためのメッセージ」を通じて、命の大切さを改めて認識することができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の生活習慣が将来の健康に直結しているという実感がまだ薄く、主体的に取り組む姿勢が十分ではない。今後は自分のこととして意識し、生活習慣を改善していく必要がある。 ・今回の学習のみでは、がん患者への理解や「共に生きる」という視点について十分な深まりが得られたとは言えない。継続的な学習を通じて、理解をさらに深めていくことが求められる。 		

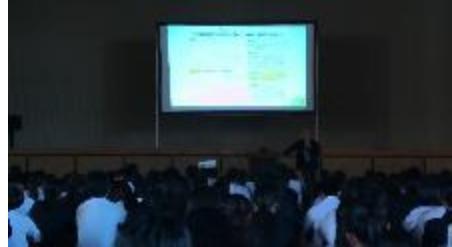
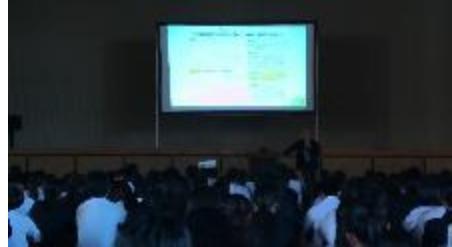
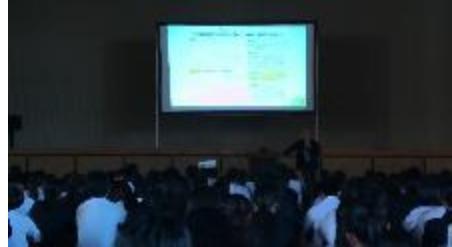
【別紙様式 2】

令和 7 年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書																																												
光市立室積中学校	学級数：4 学級	生徒数：112 人																																										
<table border="1"> <tr> <td>令和 7 年 9 月 19 日（金）</td> <td>学年 第 3 学年</td> <td>教科 保健体育</td> </tr> <tr> <td colspan="3">題材名 がんを学ぼう！あなたと大切な人の命のために</td> </tr> <tr> <td colspan="3">がん教育において取り扱う具体的な内容</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input checked="" type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生 </td> </tr> <tr> <td colspan="3">○使用教材等</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省） ・中学校・高等学校版 スライドモジュール 2、4、7 </td> </tr> <tr> <td colspan="3">○授業の内容（流れ）</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 1 がんの現状について知る。 2 がんの原因について知る。 3 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 4 がんにかかるリスクを減らすために、何ができるか考える。（がん予防） 5 がん治療に必要な支援（緩和ケア） ※講師による講話 6 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する。 </td> </tr> <tr> <td colspan="3">  </td> </tr> <tr> <td colspan="3">○外部講師との連携</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 桝野 統胤（ますのとういん）氏 光市 普賢寺（ふげんじ）住職 認定臨床宗教師 病院ボランティア（徳山中央病院、岩国医療センター） </td> </tr> <tr> <td colspan="3">○成果と課題</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 【成果】 <ul style="list-style-type: none"> 授業前は、がんは自分とはあまり関わりのない病気だと考えている生徒が多くいたが、授業後にとっていたアンケートでは、がんについての関心が高くなっていた。 外部講師の先生の話が丁寧で、生徒にもわかりやすく、がん患者の緩和ケアについて考える時間を共有することができた。 授業後の振り返りで、がんが身近な病気であることや自分の生活習慣の見直しについて考えている生徒が多く見られた。 講義や外部講師の話を聞き、がんに対する知識や理解が深まるとともに、がん患者の方に対して自分にできることを考えようとしていた。 保護者や他校の教職員の参加もあり、よい研修機会であるという評価があった。 </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> 今回の実践が、その場限りのものにならないよう、継続的に進めていくことが大切であると考える。 がん教育における小学校、中学校、高等学校等との継続性や連携を図ることが課題である。 </td> </tr> </table>			令和 7 年 9 月 19 日（金）	学年 第 3 学年	教科 保健体育	題材名 がんを学ぼう！あなたと大切な人の命のために			がん教育において取り扱う具体的な内容			<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input checked="" type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生			○使用教材等			がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省） ・中学校・高等学校版 スライドモジュール 2、4、7			○授業の内容（流れ）			1 がんの現状について知る。 2 がんの原因について知る。 3 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 4 がんにかかるリスクを減らすために、何ができるか考える。（がん予防） 5 がん治療に必要な支援（緩和ケア） ※講師による講話 6 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する。						○外部講師との連携			桝野 統胤（ますのとういん）氏 光市 普賢寺（ふげんじ）住職 認定臨床宗教師 病院ボランティア（徳山中央病院、岩国医療センター）			○成果と課題			【成果】 <ul style="list-style-type: none"> 授業前は、がんは自分とはあまり関わりのない病気だと考えている生徒が多くいたが、授業後にとっていたアンケートでは、がんについての関心が高くなっていた。 外部講師の先生の話が丁寧で、生徒にもわかりやすく、がん患者の緩和ケアについて考える時間を共有することができた。 授業後の振り返りで、がんが身近な病気であることや自分の生活習慣の見直しについて考えている生徒が多く見られた。 講義や外部講師の話を聞き、がんに対する知識や理解が深まるとともに、がん患者の方に対して自分にできることを考えようとしていた。 保護者や他校の教職員の参加もあり、よい研修機会であるという評価があった。 			【課題】 <ul style="list-style-type: none"> 今回の実践が、その場限りのものにならないよう、継続的に進めていくことが大切であると考える。 がん教育における小学校、中学校、高等学校等との継続性や連携を図ることが課題である。 		
令和 7 年 9 月 19 日（金）	学年 第 3 学年	教科 保健体育																																										
題材名 がんを学ぼう！あなたと大切な人の命のために																																												
がん教育において取り扱う具体的な内容																																												
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input checked="" type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生																																												
○使用教材等																																												
がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省） ・中学校・高等学校版 スライドモジュール 2、4、7																																												
○授業の内容（流れ）																																												
1 がんの現状について知る。 2 がんの原因について知る。 3 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 4 がんにかかるリスクを減らすために、何ができるか考える。（がん予防） 5 がん治療に必要な支援（緩和ケア） ※講師による講話 6 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する。																																												
																																												
○外部講師との連携																																												
桝野 統胤（ますのとういん）氏 光市 普賢寺（ふげんじ）住職 認定臨床宗教師 病院ボランティア（徳山中央病院、岩国医療センター）																																												
○成果と課題																																												
【成果】 <ul style="list-style-type: none"> 授業前は、がんは自分とはあまり関わりのない病気だと考えている生徒が多くいたが、授業後にとっていたアンケートでは、がんについての関心が高くなっていた。 外部講師の先生の話が丁寧で、生徒にもわかりやすく、がん患者の緩和ケアについて考える時間を共有することができた。 授業後の振り返りで、がんが身近な病気であることや自分の生活習慣の見直しについて考えている生徒が多く見られた。 講義や外部講師の話を聞き、がんに対する知識や理解が深まるとともに、がん患者の方に対して自分にできることを考えようとしていた。 保護者や他校の教職員の参加もあり、よい研修機会であるという評価があった。 																																												
【課題】 <ul style="list-style-type: none"> 今回の実践が、その場限りのものにならないよう、継続的に進めていくことが大切であると考える。 がん教育における小学校、中学校、高等学校等との継続性や連携を図ることが課題である。 																																												

【別紙様式2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書		
山口市立二島中学校	学級数：4学級 児童・生徒数：23人	
令和7年10月 7日(火)	全 学 年	教科等：保健体育科
題材名(演題) 「がんについて 正しい理解をしよう」		
がん教育において取り扱う具体的な内容(複数選択可)		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは(がんの要因等) <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生		
使用教材等		
がん教育推進のための教材 補助教材(文部科学省) • 中学校・高等学校版 スライドモジュール1、2、3		
講演会の流れ <ol style="list-style-type: none"> 1 がんという病気について知る。 2 がんの現状について知る。 <ul style="list-style-type: none"> • がんの発生のしくみについて • 日本の現状、死因第1位 • 特別なものではなく、誰でもかかる可能性があること 3 がんの発生と進行について知る。 <ul style="list-style-type: none"> • 原因はいろいろとあり、気をつけていてもかかることがある • がん予防のためにできることがある(生活習慣・検診など) 4 本時の学習の振り返り。 <ul style="list-style-type: none"> • 自分にできそうなことを考えてみる 		
外部講師との連携 山口県立総合医療センター 消化器内科 腫瘍内科医師 田島 邦彦 氏		
成果と課題 (成果) がんを身近なものとして捉えることができていない生徒たちへ、現在死因第1位のがんという病気について専門家から話を聞くことにより、誰にでも起こりうる病気であること、がんに関する正しい知識を知っておくことや、生活習慣に気をつけること、検診を確実に受けることの大切さについて学ぶことができた。 保護者や地域の方へも参加を呼びかけ、少数ではあるが地域の方にも生徒が学んでいることについて知ってもらうことができた。 (課題) 講演会という形だったため、質問された内容に個人で回答するという形だった。生徒同士で意見を交わし合うことで、様々な考え方や捉え方を知ることができるため、グループワーク等の時間を設けるとさらに深い学びにつながるのではないかと考える。		

【別紙様式 2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書																													
山口県立下関中等教育学校	学級数：18 学級	生徒数：567 人																											
<table border="1"> <tr> <td>令和7年10月23日（木）</td> <td>全学年・保護者・他校教職員</td> <td>特別活動・LHR</td> </tr> <tr> <td colspan="3">題材名 がん教育講演会</td> </tr> <tr> <td colspan="3">がん教育において取り扱う具体的な内容</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <input checked="" type="checkbox"/>ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/>イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/>ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/>エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/>オ がんの早期発見、がん検診 <input checked="" type="checkbox"/>カ がんの治療法 <input checked="" type="checkbox"/>キ がん治療における緩和ケア <input checked="" type="checkbox"/>ク がん患者の生活の質 <input checked="" type="checkbox"/>ケ がん患者への理解と共生 </td> </tr> <tr> <td colspan="3">使用教材等</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省） <ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校版 スライドモジュール（2）（7） ・井岡先生オリジナルスライド </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 講演会の内容 <ol style="list-style-type: none"> 1 がんとは何か 2 がんの発生機序 3 がんの種類と男女の罹患差 4 好発年齢とその経過 5 早期発見のため努力とは何か 6 予防できるがんの種類 7 がん予防ワクチンが男女ともに必要な理由 8 周囲の人ができる患者への支援について 9 緩和ケアの意味とその効果 10 患者と家族を支援するチーム医療について 11 がん経験者やその家族の経験談 12 身近な人ががん患者になった時、中高生の自分ができること 13 質疑応答（中学2年、高校1年、保護者が質問した）  </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 外部講師との連携 山口大学医学部附属病院 腫瘍センター 准教授 井岡 達也 氏 </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 成果と課題 <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する知識を学ぶことができた。 ・医療現場の具体的な話を聞くことで、より理解が深まった。 ・緩和ケアと治療について、正しい知識を得ることができた。 ・患者やその家族の体験談から、がん患者に対して自分がどのような支援ができるかを具体的に考える機会が持てた。 ・講演後、がん学習が必要だと感じた生徒が増えた。 ・がんという疾病のみならず、医療全般について広く関心を持つことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に講師と情報交換を行うことで、より効果的な取り組みになると感じた。 </td> </tr> </table>			令和7年10月23日（木）	全学年・保護者・他校教職員	特別活動・LHR	題材名 がん教育講演会			がん教育において取り扱う具体的な内容			<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input checked="" type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input checked="" type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生			使用教材等			がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省） <ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校版 スライドモジュール（2）（7） ・井岡先生オリジナルスライド 			講演会の内容 <ol style="list-style-type: none"> 1 がんとは何か 2 がんの発生機序 3 がんの種類と男女の罹患差 4 好発年齢とその経過 5 早期発見のため努力とは何か 6 予防できるがんの種類 7 がん予防ワクチンが男女ともに必要な理由 8 周囲の人ができる患者への支援について 9 緩和ケアの意味とその効果 10 患者と家族を支援するチーム医療について 11 がん経験者やその家族の経験談 12 身近な人ががん患者になった時、中高生の自分ができること 13 質疑応答（中学2年、高校1年、保護者が質問した） 			外部講師との連携 山口大学医学部附属病院 腫瘍センター 准教授 井岡 達也 氏			成果と課題 <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する知識を学ぶことができた。 ・医療現場の具体的な話を聞くことで、より理解が深まった。 ・緩和ケアと治療について、正しい知識を得ることができた。 ・患者やその家族の体験談から、がん患者に対して自分がどのような支援ができるかを具体的に考える機会が持てた。 ・講演後、がん学習が必要だと感じた生徒が増えた。 ・がんという疾病のみならず、医療全般について広く関心を持つことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に講師と情報交換を行うことで、より効果的な取り組みになると感じた。 		
令和7年10月23日（木）	全学年・保護者・他校教職員	特別活動・LHR																											
題材名 がん教育講演会																													
がん教育において取り扱う具体的な内容																													
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input checked="" type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input checked="" type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生																													
使用教材等																													
がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省） <ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校版 スライドモジュール（2）（7） ・井岡先生オリジナルスライド 																													
講演会の内容 <ol style="list-style-type: none"> 1 がんとは何か 2 がんの発生機序 3 がんの種類と男女の罹患差 4 好発年齢とその経過 5 早期発見のため努力とは何か 6 予防できるがんの種類 7 がん予防ワクチンが男女ともに必要な理由 8 周囲の人ができる患者への支援について 9 緩和ケアの意味とその効果 10 患者と家族を支援するチーム医療について 11 がん経験者やその家族の経験談 12 身近な人ががん患者になった時、中高生の自分ができること 13 質疑応答（中学2年、高校1年、保護者が質問した） 																													
外部講師との連携 山口大学医学部附属病院 腫瘍センター 准教授 井岡 達也 氏																													
成果と課題 <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する知識を学ぶことができた。 ・医療現場の具体的な話を聞くことで、より理解が深まった。 ・緩和ケアと治療について、正しい知識を得ることができた。 ・患者やその家族の体験談から、がん患者に対して自分がどのような支援ができるかを具体的に考える機会が持てた。 ・講演後、がん学習が必要だと感じた生徒が増えた。 ・がんという疾病のみならず、医療全般について広く関心を持つことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に講師と情報交換を行うことで、より効果的な取り組みになると感じた。 																													

【別紙様式2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書		
宇都市立東岐波小学校	学級数：3学級	児童生徒数：99人
令和7年10月30日（木）	第6学年	教科 体育
題材名（演題）がん患者の思い～がんになった私が伝えたいこと～		
がん教育において取り扱う具体的な内容		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生		
使用教材等 がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省）		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校版 映像教材「がん博士の『がんについての基礎知識』」（事前指導で使用） ・ 中学校・高等学校版 スライドモジュール1、4、5（一部抜粋） 		
<p>授業（講演会）の内容（流れ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講師の自己紹介 2 がんの現状、原因について知る。 3 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 4 講師のがんの体験談を聞き、がんになった時の気持ち、がん患者が望んでいることを知る。 5 本時の学習の振り返りをワークシートに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・がんに向き合う人へのよりよいかかわり方 ・今後の生活でどんなことを大切にしたい 		
<p>外部講師との連携</p> <p>ポポメリー代表 藤本 育栄 氏</p> 		
<p>成果と課題</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会の中でがん経験者の話を聞き、がんについて他人事ではなく自分事として考えることができた。 ・山口県のがん検診受診率を聞いて、自分が将来検診を受けることだけでなく、家族の健康についても考える機会となった。 ・がんにかかわらず困難なことがあったときに周りの人に相談する、気持ちのスイッチの切り替えをする等の対処方法を知った。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域の方にがん教育講演会の案内を出したが出席者は少なかった。継続的にがん教育をすることで児童だけでなく、保護者や地域の方にもがんについての理解を深める機会を提供する必要がある。 		

【別紙様式2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書		
柳井市立大畠中学校	学級数： 3学級	児童生徒数： 29人

令和7年11月10日(月)	学年 第1～3学年	教科 特別活動
題材名（演題）がんについて知ろう、がんについて考えよう		
がん教育において取り扱う具体的な内容		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input checked="" type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生		
使用教材等		
がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省） 中学校・高等学校版 スライドモジュール1、2、3、4、5、6		
<p>授業（講演会）の内容（流れ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 がんができる仕組みについて知る。 2 がんの原因について知る。 3 がんの罹患率について日本の現状を知る。 4 がんにかかるリスクを減らすために、何ができるかを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣を整えること（5つの習慣） 日本人の塩分摂取量について考える。 5 がん検診の必要性について知る。 6 がん検診の種類と受け方について知る。 7 山口県のがん検診の受診率の低さについて知り、班ごとにその理由を考える。 8 がんの治療方法について知る。 9 本時の学習の振り返り、まとめを行う。 10 質疑応答 11 振り返りをワークシートに記入する。 		
<p>外部講師との連携</p> <p>国立病院機構 岩国総合医療センター 地域医療連携室 がん看護専門看護師 上田 佳奈 氏</p>		
<p>成果と課題</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんの罹患率について知ることで、他人事ではなく自分事としてがんについて真剣に考えることができた。 ・検診の内容や実際の受け方を知ることで、「将来がん検診を受ける年齢になった時には受けようと思う」という生徒からの声が多数あり、検診に対しての抵抗感を減らすことができた。 ・保護者、地域の方も参加していただき、がんについての正しい最新の知識を得る貴重な機会となった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生の保健体育で学習する内容であり、授業に絡めて実施するとさらに良かった。 ・今後、3年に一度など継続的に実施ができると良い。 		

【別紙様式2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書		
光市立島田中学校	学級数：12 学級 児童・生徒数：274人	
令和7年 11月11日（火）	学年： 第2学年	教科等 保健体育
題材名（演題）がんについて学ぼう		
がん教育において取り扱う具体的な内容（複数選択可）		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input checked="" type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input checked="" type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生		
使用教材等		
・ 中学校・高等学校版 がん教育プログラム 補助教材（文部科学省）		
授業（講演会）の内容（流れ）		
<ol style="list-style-type: none">1 がんについて知る。2 検診の受診率からがんに対する意識を考える。3 がん患者さんに関わる人を知る。4 がん患者さんの生活やその後などについて知る。5 がんの治療について<ul style="list-style-type: none">・治療方法やその費用など6 がんとのかかわり方について7 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する。		
		
外部講師との連携		
國次 葉月 氏（徳山中央病院 副看護部長）		
成果と課題		
<p>（成果）今回のがん教育講演会では、実際にがん治療のために尽力をされている外部講師の話を聞くことができ、生徒達がより真剣に深くがんについて学び考えることができた。言葉としてがんを知っているが身近に捉えることは難しい部分もあったが、がん検診の受診率や現場での治療についてなど具体的な内容を教えていただき、生徒もがんが他人事ではないことや、がんとの向き合い方などについて学んだことで自分たちにできることについて考える契機となった様子であった。生徒の振り返りの中にも、がんになったとしても多くの人の支えがあり治療できることを知って安心したなど真剣に捉えた様子がうかがえた。</p>		
<p>（課題）本年度は2年生を対象に実施したが生徒は保健の授業での学びの定着が薄いことが感じられた。本事業等を活用し学びを深めることの継続性が必要である。</p>		

【別紙様式 2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書		
光市立浅江小学校	学級数：4学級	児童生徒数：111人
令和7年11月13日（木）	第5学年	教科 道徳
題材名（演題）「がん患者の思い」～がんになった私が伝えたいこと～		
がん教育において取り扱う具体的な内容		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生		
使用教材等 (事前指導) がん教育推進のための教材 情報教材（文部科学省） ・小学校版 映像教材「がん博士の『がんについての基礎知識』」		
授業の内容（流れ） <ol style="list-style-type: none"> 1 講師の自己紹介 2 がんの原因・現状について知る。 3 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 4 がんになったときの気持ちを知る。 5 がん患者が望んでいることを知る。 6 家族にがんについて考えてもらうために、どのようなことを伝えればよいか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合う。 ・話し合った内容を発表する。 7 外部講師のメッセージを聞き、学びを振り返る。 (講演後教室で) 外部講師にお礼の手紙を書く。		
外部講師との連携 ポポメリー代表 藤本 育栄 氏		
成果と課題 (成果) 授業前後のアンケートの項目「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」において、「そう思う」と回答した児童が60.6%から80.2%に増加した。講師の話を聴き、大切な家族にがんについて考えてもらうために、どのようなことを伝えればよいかについて授業で話し合ったことが、肯定的な結果に結びついたと考える。 また、授業後に外部講師に宛てて書いたお礼の手紙には、「家族にがん検診に行くように伝えたい。自分も二十歳を過ぎたら定期的に検診に行きたい」「もしも、身近な人ががんになったら、支えられるようになりたい」など、がんを自分事として捉え、「命を大切にすること」「よりよく生きていくこと」について考える機会となったことが窺える。		
(課題) 児童や保護者、教職員のがんに対する理解を深めるためには、外部講師と連携して行うがん教育のみにとどまらず、道徳教育とタイアップする等、教科横断的な学習を実施したい。		

【別紙様式 2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書		
柳井市立日積小学校	学級数： 1学級	児童生徒数： 6人
令和7年11月18日（火）	学年 第5・6学年	教科 体育（保健）
題材名（演題） がんといっしょに生きる		
がん教育において取り扱う具体的な内容		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input checked="" type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input checked="" type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生		
使用教材等		
がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省） ・ 小学校版 映像教材「がん博士の『がんについての基礎知識』」		
<ul style="list-style-type: none"> 事前アンケート実施 		
<p>授業（講演会）の内容（流れ）</p> <ol style="list-style-type: none"> がんについて正しく理解する。 <ul style="list-style-type: none"> がんと言われて思ったこと がんで受けた治療（三大治療） がんの原因について知る。 がんになりにくい生活について考える。 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 がんになったためにできることを考える。 本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 事後アンケート実施 		
<p>外部講師との連携</p> <p>がん患者と家族の会 にじいろ 代表 江中 忠孝 氏</p>		
<p>成果と課題</p> <p>授業のねらいを外部講師と共有することで、ねらいにそった資料を準備して話をしてくれだったので、大変有意義な時間になった。児童は講師の体験談を真剣に聞き、心に響いていたようであった。これまででは、健康についてあまり意識をしないで過ごした児童も、健康な生活は当たり前ではないことを実感し、自分で自分を守るために、望ましい生活習慣や定期健診の大切さに気付くことができた。また、患者の生活や思いに触れることで、相手の気持ちに寄り添い、自分にできることについて考えたいという気持ちをもつことができた。</p> <p>今回は授業公開日に、5・6年生とその保護者を対象として実施したが、もっと多くの児童や保護者、地域の方にも聞いていただき、地域で健康への意識を高められると良い。また、今年度初めての実施であったが、今後も継続的に健康への意識を高くもち続けるために、これからどのように「がん教育」を進めていくかを考えていく必要がある。</p>		

【別紙様式2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書		
柳井市立柳井西中学校	学級数：6学級	生徒数：122人

令和7年11月25日（火）	全学年（1～3年）	教科 特別活動
題材名（演題）未来につなぐがん教育～「早期発見」と「寄り添う心」が守るがんと共に生きる社会～		
がん教育において取り扱う具体的な内容		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input checked="" type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input checked="" type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生		
使用教材等		
<ul style="list-style-type: none"> ・がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省） 中学校・高等学校版 スライドモジュール5、7、9 		
授業（講演会）の内容（流れ）		
<ol style="list-style-type: none"> 1 がんについて知る。 2 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 3 検診の意義・重要性・現状について知る。 4 緩和ケアと多角的な支援について知る。 5 共生と「寄り添う心」について考える。 6 質疑応答。 7 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケートの実施 ・冊子「みんなで学ぶ やさしいがんの知識」 (公益財団法人がん研究振興財団) の配布 		
		
外部講師との連携		
周東総合病院 緩和ケア認定看護師 用傳 恵美 氏		
成果と課題		
(成果)		
<ul style="list-style-type: none"> ・事前、事後のアンケートの結果を比較すると、「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」、「がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ」の項目に対して、肯定的な回答をしている生徒が増加しており、がんの学習への関心の向上がみられた。 ・事前、事後のアンケートだけでなく、実施後の感想からも、「早期発見が大切だ」ということがわかった、「大人になったら積極的に検診を受けたい」等の記入がみられ、早期発見・早期治療の重要性を知り、がんについて自分事として捉えることができていた。 		
(課題)		
<ul style="list-style-type: none"> ・補助教材のスライドの字が小さく、後方にいた生徒や保護者は見えにくかったため、事前に把握しておく必要があった。 ・講演会の内容に関して配慮の必要な生徒が多く、対応に苦慮した。また、50分の講演を予定していたが、30分程で終わったことにより、質疑応答の時間が長くなってしまった。今後も継続して開催していくためには、内容や時間配分、保護者や地域へのアナウンスの仕方等を細やかに検討していく必要がある。 		

【別紙様式 2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書	
下松市立花岡小学校	学級数：4学級 児童生徒数：130人

令和7年12月2日（火）	学年 第5学年	教科 保健体育
題材名（演題） がん教育		
がん教育において取り扱う具体的な内容		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input checked="" type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生		
使用教材等 がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省）		
<ul style="list-style-type: none"> 中学校・高等学校版 スライドモジュール1、2、3、4、6（一部抜粋） 		
授業（講演会）の内容（流れ） <ol style="list-style-type: none"> 前回（1週間前に外部講師無しで行った事前学習）の学びについて振り返る。 がんの罹患率や死亡率などの現状を知る。 がんになりにくくするための方法について考える。 講師講話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアについて 傾聴について 実際にしている活動について がんの早期発見・早期治療の重要性について がん教育を経て、今の自分には何ができるか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> がん検診を受けるよう勧める 正しい情報を得るようにする お家の人に今日聞いた話をする 等 		
 <p>図1 外部講師の話を聞く児童</p>		
 <p>図2 友達と意見交換する児童</p>		
外部講師との連携 柚野 統胤（ますのとういん）氏 光市 普賢寺（ふげんじ）住職 認定臨床宗教師 病院ボランティア（徳山中央病院、岩国医療センター）		
成果と課題 がん教育を受けたことで、「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」と考える児童の割合が、76.8%から92.1%へ向上した。また、「がん検診を受けられる年齢になつたら、検診を受けようと思う」と回答した児童の割合も、60.8%から85.0%へ向上した。さらに、「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」と回答した児童の割合も、47.2%から70.2%へと向上した。 これらの結果から、児童はがん教育を受けたことで、がん教育自体の大切さや、検診を受けることの大切さを学んだことがわかる。このような結果を得ることができた要因の一つに、外部講師との連携が挙げられる。「児童に何を学んでほしいか」「授業のゴールをどこに置くか」「どこを外部講師が担当するか」など、何度も打ち合わせを行った。がん教育を行う一週間前に、教員による事前学習を1時間行っていたことで、基本的な知識をもった上で講話を聞くことができたのも、大変良かった。 今回の学びで終わらせないために、今後どうしていくかが課題だと感じている。		

【別紙様式2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書		
山口市立島地小学校	学級数： 1学級	児童数： 8人
令和7年12月5日（金）	第5・6学年	教科 体育科（保健）
題材名（演題）がん経験者として伝えたいこと～みんなが健康するためにできること～		
がん教育において取り扱う具体的な内容 <input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生		
使用教材等 ・小学校版 映像教材「がん博士の『がんについての基礎知識』」		
授業（講演会）の内容（流れ） 1 病気について考える。 2 がんがどのような病気なのか、知っていること、イメージを発表する。 3 がんの原因について知り、教科書の分類に分ける。 4 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 5 がんにかかるリスクを減らすために、何ができるか考える。 ・自分がどんなことに気をつけて生活するか。 ・大切な人にどんなアドバイスをするか。 6 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する。		
		
外部講師との連携 日本オストミー協会 山口県支部事務局長 高下 憲治 氏		
成果と課題 <成果> ・がんについて正しい知識（がんは生活習慣が関わっていること、がんは治る病気へとなっていること、早期発見が大切で、そのためには検診を受けることが大切であること）を学ぶことができたこと。 ・高下様のご経験から、がんにとどまらず、命の大切さにも触れていただき、命の教育にもなったこと。 <課題> ・子どもだけでなく大人も一緒に考えるべき健康課題のため、周囲の大人をもっと巻き込んだ教育の方が子どもの学びが深まると思った。周知方法や開催時期を更に考え、地域との合同の学びの場を作り出していくにはどうしたらよいか考えていくことが課題と考える。		

【別紙様式 2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書		
光市立光井中学校	学級数：8学級	児童生徒数：134人
令和7年12月9日（火）	学年 全学年	教科 学級活動
題材名（演題） がんになって見えたもの～若年性乳がん体験者として～		
がん教育において取り扱う具体的な内容		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生		
使用教材等 <ul style="list-style-type: none"> • 講師作成スライド 		
授業（講演会）の内容（流れ） <ol style="list-style-type: none"> 1 自分の現在や未来の健康について考える。 2 がんの現状について知る。 3 がんの原因について知る。 4 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 5 がんにかかるリスクを減らすために、何ができるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> • 自分がどんなことに気をつけて生活するか。 • 大切な人にどんなアドバイスをするか。 6 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する。 		
外部講師との連携 「Pink Ring」西日本branch代表 井上 裕香子 氏		
成果と課題 <p>初めての試みであったが生徒たちは大変熱心に聞いていた。事前・事後アンケートの比較から「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」「日頃からバランスの良い食事や適度な運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」の質問等で肯定的な回答が大幅に増え、がん予防への理解が高まった。また、「共感して寄り添いたい」、「今の日常が当たり前ではないことに気づいた」という感想が多く見られ、知識だけでなく、患者への理解や命の大切さについて深く考えるきっかけになった。</p> <p>貴重な機会であったため、もっと多くの保護者や地域の方に聞いていただけるとよい。単発で終わらず、継続していくとよいが、医療従事者とがん経験者を交互に実施してもよいと感じた。</p>		

【別紙様式 2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書																													
萩市立佐々並小学校	学級数：3学級	児童生徒数：13人																											
<table border="1"> <tr> <td>令和7年12月10日（水）</td> <td>学年 第5.6学年（複式）</td> <td>教科 特別活動</td> </tr> <tr> <td colspan="3">題材名（演題）がんという病気を知り、自分や大切な人のためにできることを考えよう</td> </tr> <tr> <td colspan="3">がん教育において取り扱う具体的な内容</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <input checked="" type="checkbox"/>ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/>イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/>ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/>エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/>オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/>カ がんの治療法 <input type="checkbox"/>キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/>ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/>ケ がん患者への理解と共生 </td> </tr> <tr> <td colspan="3">使用教材等</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> 中学校・高等学校版 スライドモジュール1、4（一部抜粋） がん教育推進のための教材（令和3年度3月 一部改訂）（文部科学省） </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 授業の内容（流れ） <ol style="list-style-type: none"> 講師紹介 がんに対する児童の認識を確認。 がんの発生、原因、予防について知る。 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 山口県の受診率や萩市の未受診の理由等の資料を基に検診に行かない理由を考える。 実際にがんを経験された患者さんのインタビューを聞き、検診の重要性について理解する。 家族や大切な人に検診を受けてもらうためにロールプレイをする。 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する。 </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 外部講師との連携 萩市役所 健康増進課 保健師 戸田 菜穂子 氏 </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 成果と課題 (成果) ○保健学習の生活習慣病の予防の発展的な内容として扱ったため、前時で学んだことが結びつく場面があり理解が深まった。 ○保健師、担任、養護教諭がそれぞれの役割を果たすことができた。保健師に授業に入つてもらうことで一方的に伝えるだけでなく、実際に患者さんからの声を聞くことができたり、児童からの反応を見て受け答えをしたりする機会となった。 ○学校運営協議会やSC等にも授業を参観してもらい、ロールプレイでは実際に児童と会話をしてもらうことで実践に向けて児童自身が表現する（学びをアウトプットする）場を持つことができた。 ○ICTを活用し、近隣校に公開授業をすることができた。 (課題) ○今度、学校医等とも連携し、様々な専門家からがんについて学べる機会を設けたい。 ○今回の事業が単発のものにならないように、関心の維持が課題である。 </td> </tr> </table>			令和7年12月10日（水）	学年 第5.6学年（複式）	教科 特別活動	題材名（演題）がんという病気を知り、自分や大切な人のためにできることを考えよう			がん教育において取り扱う具体的な内容			<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生			使用教材等			<ul style="list-style-type: none"> 中学校・高等学校版 スライドモジュール1、4（一部抜粋） がん教育推進のための教材（令和3年度3月 一部改訂）（文部科学省） 			授業の内容（流れ） <ol style="list-style-type: none"> 講師紹介 がんに対する児童の認識を確認。 がんの発生、原因、予防について知る。 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 山口県の受診率や萩市の未受診の理由等の資料を基に検診に行かない理由を考える。 実際にがんを経験された患者さんのインタビューを聞き、検診の重要性について理解する。 家族や大切な人に検診を受けてもらうためにロールプレイをする。 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する。 			外部講師との連携 萩市役所 健康増進課 保健師 戸田 菜穂子 氏			成果と課題 (成果) ○保健学習の生活習慣病の予防の発展的な内容として扱ったため、前時で学んだことが結びつく場面があり理解が深まった。 ○保健師、担任、養護教諭がそれぞれの役割を果たすことができた。保健師に授業に入つてもらうことで一方的に伝えるだけでなく、実際に患者さんからの声を聞くことができたり、児童からの反応を見て受け答えをしたりする機会となった。 ○学校運営協議会やSC等にも授業を参観してもらい、ロールプレイでは実際に児童と会話をしてもらうことで実践に向けて児童自身が表現する（学びをアウトプットする）場を持つことができた。 ○ICTを活用し、近隣校に公開授業をすることができた。 (課題) ○今度、学校医等とも連携し、様々な専門家からがんについて学べる機会を設けたい。 ○今回の事業が単発のものにならないように、関心の維持が課題である。		
令和7年12月10日（水）	学年 第5.6学年（複式）	教科 特別活動																											
題材名（演題）がんという病気を知り、自分や大切な人のためにできることを考えよう																													
がん教育において取り扱う具体的な内容																													
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生																													
使用教材等																													
<ul style="list-style-type: none"> 中学校・高等学校版 スライドモジュール1、4（一部抜粋） がん教育推進のための教材（令和3年度3月 一部改訂）（文部科学省） 																													
授業の内容（流れ） <ol style="list-style-type: none"> 講師紹介 がんに対する児童の認識を確認。 がんの発生、原因、予防について知る。 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 山口県の受診率や萩市の未受診の理由等の資料を基に検診に行かない理由を考える。 実際にがんを経験された患者さんのインタビューを聞き、検診の重要性について理解する。 家族や大切な人に検診を受けてもらうためにロールプレイをする。 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する。 																													
外部講師との連携 萩市役所 健康増進課 保健師 戸田 菜穂子 氏																													
成果と課題 (成果) ○保健学習の生活習慣病の予防の発展的な内容として扱ったため、前時で学んだことが結びつく場面があり理解が深まった。 ○保健師、担任、養護教諭がそれぞれの役割を果たすことができた。保健師に授業に入つてもらうことで一方的に伝えるだけでなく、実際に患者さんからの声を聞くことができたり、児童からの反応を見て受け答えをしたりする機会となった。 ○学校運営協議会やSC等にも授業を参観してもらい、ロールプレイでは実際に児童と会話をしてもらうことで実践に向けて児童自身が表現する（学びをアウトプットする）場を持つことができた。 ○ICTを活用し、近隣校に公開授業をすることができた。 (課題) ○今度、学校医等とも連携し、様々な専門家からがんについて学べる機会を設けたい。 ○今回の事業が単発のものにならないように、関心の維持が課題である。																													

【別紙様式 2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書																										
下関市立桜山小学校	学級数：9学級	児童生徒数：132人																								
<table border="1"> <tr> <td>令和7年12月12日（金）</td> <td>学年 第6学年</td> <td>教科 保健</td> </tr> <tr> <td colspan="3">題材名（演題） 「がん」ってどんな病気？</td> </tr> <tr> <td colspan="3">がん教育において取り扱う具体的な内容</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <input checked="" type="checkbox"/>ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/>イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/>ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/>エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/>オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/>カ がんの治療法 <input type="checkbox"/>キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/>ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/>ケ がん患者への理解と共生 </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 使用教材 がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省） <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校版 映像教材「がん博士の『がんについての基礎知識』」 </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 授業の内容（流れ） <ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介 2 がんの現状について知る。 3 がんの原因について知る。 4 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 5 がんにかかるリスクを減らすために、何ができるか考える。 6 がん患者さんへできることを考える。（ウィッグの装着体験） 7 本時の学習の振り  </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 外部講師との連携 ポポメリー 波多野 早苗 氏 </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 成果と課題 <p>子供たちの中で「がん」は遠い存在だったのが、日本人の半分が「がん」にかかっていると知って身近に感じられた。生活習慣が「がん」を引き起こす要因の1つであることがわかり、生活習慣を見直す必要があると感じた子供たちがたくさんいた。がん患者さんや支える家族の思いを語ってもらう時間がなく、45分では短く、もったいないと感じた。</p> </td> </tr> </table>			令和7年12月12日（金）	学年 第6学年	教科 保健	題材名（演題） 「がん」ってどんな病気？			がん教育において取り扱う具体的な内容			<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生			使用教材 がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省） <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校版 映像教材「がん博士の『がんについての基礎知識』」 			授業の内容（流れ） <ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介 2 がんの現状について知る。 3 がんの原因について知る。 4 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 5 がんにかかるリスクを減らすために、何ができるか考える。 6 がん患者さんへできることを考える。（ウィッグの装着体験） 7 本時の学習の振り 			外部講師との連携 ポポメリー 波多野 早苗 氏			成果と課題 <p>子供たちの中で「がん」は遠い存在だったのが、日本人の半分が「がん」にかかっていると知って身近に感じられた。生活習慣が「がん」を引き起こす要因の1つであることがわかり、生活習慣を見直す必要があると感じた子供たちがたくさんいた。がん患者さんや支える家族の思いを語ってもらう時間がなく、45分では短く、もったいないと感じた。</p>		
令和7年12月12日（金）	学年 第6学年	教科 保健																								
題材名（演題） 「がん」ってどんな病気？																										
がん教育において取り扱う具体的な内容																										
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生																										
使用教材 がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省） <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校版 映像教材「がん博士の『がんについての基礎知識』」 																										
授業の内容（流れ） <ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介 2 がんの現状について知る。 3 がんの原因について知る。 4 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 5 がんにかかるリスクを減らすために、何ができるか考える。 6 がん患者さんへできることを考える。（ウィッグの装着体験） 7 本時の学習の振り 																										
外部講師との連携 ポポメリー 波多野 早苗 氏																										
成果と課題 <p>子供たちの中で「がん」は遠い存在だったのが、日本人の半分が「がん」にかかっていると知って身近に感じられた。生活習慣が「がん」を引き起こす要因の1つであることがわかり、生活習慣を見直す必要があると感じた子供たちがたくさんいた。がん患者さんや支える家族の思いを語ってもらう時間がなく、45分では短く、もったいないと感じた。</p>																										

【別紙様式2】

令和7年度「学校におけるがん教育推進事業」実施報告書	
柳井市立柳井中学校	学級数：6学級 児童生徒数：191人

令和7年12月16日(火)	学年 第1学年	教科 学活
題材名(演題) 「がんになった私が伝えたいこと」		
がん教育において取り扱う具体的な内容		
<input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは(がんの要因等) <input checked="" type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input checked="" type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input checked="" type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input checked="" type="checkbox"/> がん患者の生活の質 <input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生		
授業(講演会)の内容(流れ)		
1 日本におけるがんの状況 2 がん(病気)について 3 がんの予防について 4 早期発見・検診について 5 治療法について 6 ヘルプマークについて 7 ピンクリボン等を通した出会い 8 がん患者への理解と共生について • 事後アンケート・感想の記入		
 		

外部講師との連携

「Pink Ring」西日本branch代表 井上 裕香子 氏

成果と課題

(成果)

- ・がんは誰にでも起こり得る身近な病気であることを理解し、がんを自分事として捉える生徒が多く見られた。
- ・生活習慣(食事・運動・喫煙・飲酒)やがん検診の重要性について理解が深まり、将来の行動に繋げようとする意識が高まった。
- ・講師の体験談を通して、がん治療の大変さや副作用、日常生活のありがたさについて考える機会となった。
- ・ヘルプマークの意味を知り、外見からは分からない病気や困りごとを抱える人への配慮や思いやりの気持ちが育まれた。

(課題)

- ・今回は第1学年を対象に実施したが、保健体育科におけるがん教育での事前学習を踏まえたうえで講演会を行うことで、学びの理解や定着がより高まると考えられる。
- ・がん教育講演会の実施にあたっては、生徒一人一人の心情への配慮が必要であり、配慮や慎重さが求められる教育である。そのため、学校内で完結するのではなく、地域や保護者を含めた理解と協力のもとで実施できる体制づくりが課題である。
- ・がん教育は、生徒の命や将来に関わる重要な学習であることから、その意義を教育現場全体で共有するとともに、地域や保護者にも丁寧に伝え、共に支える「開かれた教育」として推進していく必要がある。